

7 自宅から通える場所に高校があること

自宅近くの高校に通いたい

【小学校・小学部】

- ・自宅から遠い高校だと、行き帰りにお金がかかるし、時間がかかってたいへんだから。
- ・家から一番近くの高校でも、車で20分ぐらいかかるから、もう少し近いところに高校があってほしい。
- ・家から離れると、不安がたまって、学習に集中できなくなるから。

【中学校・中学部】

- ・交通費などのお金で負担がかかり学校に来られない人もいると思うから、自転車や歩いて通える距離だったら学校に来たいと思う人が増えると思うから。
- ・登校する時間が長いと勉強に充てることのできる時間が減ってしまうから、できるだけ近いところで自分のやりたいことができる高校に行きたい。
- ・高校が遠いと、行く時にモチベーションが下がるからなるべく家から近い方がいいから。

【高等学校・高等部】

- ・家族がいる環境で生活できることで、成長の手助けに繋がると思った。
- ・都会に近い学校に通いたい。放課後にファーストフードを食べれるところに通いたい。
- ・家と学校までの距離が遠いため、自動車やバスなどで通学しているが、自動車やバスの本数が少ないので困っているの、本数を増やしてほしい。

自宅近くで高校を選びたい

【小学校・小学部】

- ・自分の家の近くに色々な高校があったらその高校で学びたいと思う。
- ・どこに住んでいても学びたい学校で学べる制度を整えてほしい。

【中学校・中学部】

- ・私の家は公共交通機関が少ないため、家から通える学校に限られてしまっています。学区内の学校でも、行ける学校と行けない学校で別れてしまい、正直行きたい学校をあまり選択できません。なので、もっと近くに進学校があると将来の止めに自分が本当にやりたいことができると思います。
- ・県内の高校で大学進学を目指そうとするとどうしても目指しやすい環境の整った高校がたくさんあるわけではないと感じます。また、盛岡市外に住む人はさらにそれが顕著だと思えます。学ぶ環境がより整った高校が増えるといいなと思えます。

【高等学校・高等部】

- ・家の周りにレベルが高い公立か私立しかなく、他の公立に通うのが大変。

7 自宅から通える場所に高校があること

通学や寮の支援をしてほしい

【小学校・小学部】

・昨今の物価高で家計に負担が掛かり、学校教育費の負担が心配です。学費を心配すること無く安心して誰もが教育を受けれる環境を整えば良いと思っています。

【中学校・中学部】

・自宅から高校までの道のりが遠い時に家の近くまでバスなどが来てくれる。
・近くの高校だけではなく、通学費用（電車賃、バス賃など）の補助を利用することで家計に負担をかけずに選べる高校の選択肢を増やしたい。
・バイトをしてもいい高校を増やして職業体験のようなことができ、社会に慣れることにもつながるし、金銭の問題で大学に行けない人も中にはいるからバイトでお金を稼いでその後いい大学に行く人をその高校から排出できるかもしれない。

【高等学校・高等部】

・登下校時の公共交通機関の運賃の援助をしてほしいです。
・町外から来る生徒だけでなく、町内の生徒にも支援をしてくれる高校が良い。
・一人一人が自分の将来について深く考えるためには家庭の事情で経済的等で選択肢が絞られたり、勉強できる環境がない人がいることを解決していくべきだと思う。大学受験や就職も同じだと思う。

7 自宅から通える場所に高校があること

県教育委員会からのコメント

県立高校の現在の姿

- 岩手県を9つの「ブロック」に分けて、高校の種類について県内全体のバランスを考えて、各ブロックの中で中学生が希望する学びを選べるようにしています。
- 専門の学びを保ちながら、より良い学習ができるようにするために、いくつかの職業の「専門学科」が集まった高校が必要だと考えています。
- 交通の便が良くなったので、「ブロック」の範囲を広げる必要があります。
- 将来、生徒の数が減った時にも、様々な専門の学びができるように、高校の種類について県内全体のバランスを考えなければならないという課題があります。
- ブロックとは別に、8つの「学区」があります。特定の高校に生徒が集まり過ぎて、地域ごとの生徒の数のバランスが崩れないようにするためです。通っている中学校がある学区ではない高校の「普通科」に入学したい生徒には、入学できる定員に制限がある場合があります。「学区」をなくした方がいいという意見もありますが、「学区」をなくしたとき、特定の地域に生徒が集まり過ぎることが心配されます。
- いくつかの学校を1つにまとめたとき、通学の費用が大きく増える場合は、他の地域との公平さを考えながら、通学などを支援することになっています。ただし、支援の方法は、電車やバスの便が地域によって違うので、他の地域との公平さや状況をよく考えなければならないという課題があります。

県立高校の将来の姿

- 岩手県を6つの地区に分けて、高校の種類について県内全体のバランスを考えます。
- 将来、生徒の数が減った時にも、様々な専門の学びができるように、高校の種類について県内全体のバランスを考えていきます。
- できるだけ地域に高校を残すために、遠隔教育などの新しい方法を考えていきます。
- 施設などを有効に使うために、特別支援学校や中学校と連携することなどを目指します。
- 「学区」については、高校の種類について県内全体のバランスを決めた後に考えていきます。
- 将来、生徒の数が減った時、どのように通学などを支援したらいいかについて、市町村と協力して考えていきます。